令和5年10月20日

阿賀野市議会議長 市川英敏様

総務文教常任委員会委員長 百都順也

所管事務調査報告書

本委員会は、令和5年第5回議会定例会において議決を経た、閉会中の所管事務調査を下記のとおり行ったので、会議規則第110条の規定により報告します。

記

- 1 調査事項 消防団の現状と今後の在り方について
- 2 調査期日 令和5年10月20日(金) 午前10時00分
- 3 調査経過

令和5年10月20日、神田教育長、菅原総務部長、羽田学校教育課長、加藤消防本部消防長並びに担当職員の出席を求めて委員会を開催し、調査事項について担当課から説明を受け、質疑・意見集約を行いました。

- 4 調査結果

消防団の設置について

消防団は、消防組織法第9条に定める消防機関の一つとして全国すべての市町村に設置されており、消防力の整備指針第35条で、「消防団は、地域防災力の中核として将来にわたり欠くことのできない代替性のない存在として、一市町村に一団を置くものとする。ただし、市町村合併等による特段の事情がある場合二団以上置くことができる。」とされています。

消防団の業務及び人員の総数

消防団は、(1)火災の鎮圧に関する業務(2)火災の予防・警戒業務(3)救助に関する業務(4)地震、風水害等の災害予防、警戒活動及び住民避難誘導等(5)武力攻撃事態等における警報の伝達、住民避難誘導等の国民保護(6)地域住民(自主防災組織)等に対する指導、協力、支援及び啓発(7)消防団の庶務の処理等の業務(8)前各号に掲げるほか、地域の実情に応じた、特に必要とされる業務を行うものとし、その総数(団員数)は、当該業務を円滑に遂行するために、地域の実情に応じて必要な数とする。とされています。

新潟県内の消防団との比較

阿賀野市と近隣市町（人口：R5.4.1 ※R4.6.1 推計）

市町村	分団数	団員数			定数/ 人口1万人	現員の R5-R3
		定数	現員	女性		
阿賀野市	13	810	688	10	201.8	▲75
新潟市	62	6,443	5,275	150	83.3	▲495
五泉市	15	755	666	19	160.9	▲46
阿賀町	4	480	459	18	498.7	▲94
新発田市	17	1,225	1,135	14	※131.6	▲241

令和3年から定員減数の条例改正した市町村数；15（長岡市、出雲崎町、三条市、村上市、関川村、南魚沼市、五泉市、阿賀町、見附市、上越市、妙高市、新発田市、胎内市、十日町市、津南町）

阿賀野市消防団の沿革

- ・平成16年4月1日 安田町、京ヶ瀬村、水原町、笹神村合併により阿賀野市消防団発足（4町村の分団部を継承13分団78部定員920人）
- ・平成17年4月1日 女性部「阿賀さくら」誕生79部
- ・平成17年3月18日 寺社地内工場火災に消防団員120人出動し消火、警戒を実施
- ・平成24年2月3日 豪雪により妙高市へ6人派遣（新井小学校雪下ろし作業）
- ・平成28年8月8日 安田地区工場火災に消防団員62人出動、消火警戒実施
- ・平成29年9月12日 笹神地区行方不明者捜索に2日間延べ22人出動、第一発見者（団長、幹部）
- ・令和5年10月1日 消防団定員（720人）及び管轄部の一部見直し（安田大和地区、笹神村杉地区、各部定員9人体制）についての条例改正

阿賀野市消防団の現状（令和5年10月1日現在）

- ・定員数720人 ・実員数691人

区域	幹部	部長以下	計
本部（正副団長）	3	0	3
安田方面隊	10	149	159
笹神方面隊	8	197	205
京ヶ瀬方面隊	9	101	110
水原方面隊	9	195	204
女性部（阿賀さくら）	0	10	10
合計	39	652	691

阿賀野市消防団の今後の在り方について

阿賀野市消防団が抱える課題について、令和2年度に「阿賀野市消防団あり方検討委員会」で阿賀野市消防団員719名を対象にアンケートを実施し、90.7%にあたる652名から回答を得ました。

事業の見直しや報酬・手当については、おおむね目標が達成しつつあります。しかし、団員の約半数の勤務地が阿賀野市外であることや、8割が勤務中の火災現場への出動が難しいことが現状であり、今後の担い手候補の確保の難しさなどから組織の再編成が必要と考えられますが、それについては、消防団はもとより地元自治会へ説明し理解を得なければ進むことはできません。

消防団や自治会の意見に耳を傾け、将来を見据えて地域防災を担う消防団とともに目指します。

【委員からの質問、意見と答弁】

・以前は自分が辞めるときは次の人を見つけてからという事例が多くあった。消防団に加入してもらうためのPR活動は大切だが、消防団が勧誘するということは伝えてあるのか。

→以前はそのような形でしていたという話は聞いていますが、今は時代的に、特に市街地では厳しい状況です。団員だけに頼るのではなく、いろいろな形で広報活動等を進めていきたいと考えています。

・人口減少、少子化によって消防団の担い手が少なくなっているなかで、今後を見越して子供たちに興味を持ってもらい、必要性を伝え、担い手をつないでいく方法を考えていかなければならないのではないかと。

→子供たちへの消防教育的な取組として、小学生の消防署見学、イベント等での消防車の乗車体験、防火衣やヘルメットを着用しての写真撮影等を実施していて好評です。幼少年については、女性消防団が幼稚園や保育園、こども園に行き、紙芝居や防火映画を見てもらっています。これらの活動を続けるとともに、新しいことも取り入れていきたいと考えています。

【意見集約】

これらを踏まえ、団員がいなくなると困る組織なので、課題を考慮し、若い世代の意見も聞きながら入りやすい体制をつくり、時代に合わせたやり方で柔軟に運営していただきたい。消防団員や活動内容に関する講座を開催し、災害時には「自分たちで守っていこう」という気持ちを持ってもらえるような取組をしながら募集をしてもらいたいと意見集約されました。

以上、総務文教常任委員会の所管事務調査の委員長報告といたします。